

原著論文と実践論文について

教育システム情報学会(Japanese Society for Information and Systems in Education)は、教育・学習のためのシステムに関する学術的情報の交換と研究・開発・利用を支援し、教育・学習と産業の発展に寄与することを目的として昭和49年8月に設立されました。その後、現在に至るまで、日本学術会議協力学術研究団体として活発に活動し、平成26年4月には一般社団法人となりました。

本学会では、学会誌を年4回、英文誌を年1回発行しています。学会誌および英文誌には、教育におけるコンピュータ利用の領域、それに隣接する領域における理論、方法論の発展とともに、実践論の普及を目的として研究論文を掲載しています。

研究論文には、原著論文、実践論文、ショートノート、実践速報の4つの種類があります。いずれも、学会誌編集委員会・英文誌編集委員会が設定した査読基準に基づいて、査読者および編集委員による厳正な審査を経て掲載されています。

原著論文は、研究、開発、検討の結果をまとめたもの、あるいは、多くの研究を独自の視点でまとめ、将来の研究分野の方向性を示したものであり、なかでも新規性、信頼性が高い研究論文です。

一方、実践論文は、情報システム・機器を利用した教育実践の結果をまとめたもので、その仕組みや条件が明確に記述されています。汎用性の高い知見や方法が客観的な形式で導出されており、なかでも有用性や信頼性が高い研究論文です。

この原著論文と実践論文とでは、上記に示したように、研究論文としての特徴は異なりますが、いずれも新規性、有用性、および信頼性が認められる高いレベルのフルペーパーです。したがって、原著論文と実践論文は、研究論文としての価値や質において、全く同一のレベルであることを、本学会として保証します。